

平成 18 年 12 月 22 日
三菱ガス化学株式会社
三菱商事株式会社

ベネズエラにおけるメタノール合弁会社の設備増強について

三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：小高英紀）および三菱商事株式会社（本社：東京都千代田区、社長：小島順彦）は、ベネズエラにおける Pequiven（国営石油化学公社）とのメタノール製造販売合弁会社である「Metanol de Oriente, METOR S.A.」（以下「メトール社」という。）で年産 85 万トンの第 2 期プラントを建設することといたしました。建設地は、現在稼働している生産プラントの隣接地となります。

メトール社が約 4 億ドルの投資を行い、生産能力を現行の 75 万トンから 160 万トンに増強いたします。2009 年後半に完工し、2010 年第 1 四半期から商業運転を開始する予定です。本計画では、資金調達として国際協力銀行、国際金融公社、市中銀行との間でメトール社融資契約を締結いたしました。なお、ファイナンシャルアドバイザーとして株式会社三菱東京UFJ銀行を起用しております。また、プラントは三菱重工業株式会社とフルターンキーベースでの建設契約を締結いたします。

メタノールは多くの川下製品を持つ基礎化学品の一つで、主にホルマリン、酢酸、ポリアセタール、MMA、ガソリン添加剤などの原料として使用されています。また今後はバイオディーゼルや DME（ジメチルエーテル）の原料や燃料電池用の燃料など幅広い用途での利用拡大も見込まれております。現在の世界需要は年間約 35 百万トンですが、高い経済成長を背景としてアジア地域、特に中国での需要拡大が見込まれており、今後も世界平均にして年率 3% で伸びていくことが見込まれています。

メタノール事業では競争力ある原料天然ガスを確保することが成功の大きな鍵であることから、近年では北米や西欧における市場立地型の旧来設備が停止する一方、中東や南米の産ガス国で新規設備が稼働するという生産地のシフトが起きていますが、三菱ガス化学および三菱商事は、いち早く両地域での事業展開を行ない、ベネズエラにおいても競争力ある天然ガスをベースとして 1994 年からメタノール生産を行なってきました。

三菱ガス化学および三菱商事は、本投資によって米国を中心とした世界市場での販売数量を拡大し、メタノール市場におけるプレゼンスをさらに高めてまいります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

三菱ガス化学株式会社 広報 IR 部 西村

TEL : 03 - 3283 - 5041

三菱商事株式会社 広報部報道チーム 吉田

TEL : 03 - 3210 - 2511

(合併会社の概要)

1. 会社名	Metanol de Oriente, METOR S.A.
2. 所在地	Jose, Etado Anzoategui, Venezuela
3. 資本金	136 百万 US\$
4. 出資比率	
	Pequiven 37.50%
	三菱ガス化学 23.75%
	三菱商事 23.75%
	Polar 10.00%
	I F C 5.00%
5. 生産能力	第1期：日産2,200トン(年産750,000トン) 第2期：日産2,500トン(年産850,000トン)
6. 生産技術	三菱(MGC/MHI)メタノールプロセス MGCと三菱重工業株式会社が共同保有するプロセス技術
7. 建設完了時期	2009年第3四半期
8. 商業生産開始	2010年第1四半期
9. 資金調達方法	国際協力銀行・国際金融公社を中心とするメトール社融資契約
10. 従業員数	157名(現地採用従業員)

以上